



森のなかま

2025年 2月号

NO. 200 (継続345号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

[第120回森林探訪]「日向薬師から日向山・広沢寺温泉へ」

開催日：2024年11月30日(土) 9:00～15:00 晴れ
コース：伊勢原駅～日向薬師バス停～日向薬師～日向山～広沢寺温泉バス停
参加者：大人41名 看護師：青木様
共催：丹沢大山自然再生委員会
講師：L松永⑩、内野⑨、小笠原⑩、西岡⑭、牧石⑭、鈴木⑯、久慈⑯

今年はいつまでも暑い日が続き、秋が来るのか心配していたがやっと11月中旬になり木々も色づいてきた。このコースは2017年4月にも日向薬師の平成大修理に伴い実施した。今回はコースの一部が台風の影響での交通止めにより、ゴールを七沢温泉から広沢寺温泉へと変更した。自然災害を垣間見る。

日向薬師バス停から5班に分かれて出発。

白髭神社では、ツガの木に寄生しているマツグミを見上げる。ノキシノブも付着している。1本の木に3種が同居している。不思議である。

日向薬師の参道はちょっと薄暗く、いろいろなシダのなかま・スダジイ実などを見ることができた。修理後7年経過した本堂は落ち着きあるものに変化してきた。

日向薬師で休憩ののち、駐車場裏から山道に入り日向山の山頂を目指す。シロダモも花・実が観察できる。頂上直下の階段はちょっとお腹も減りづらい。お互い励まし合い頂上へ。頂上付近はナイスの森として手入れがされていた。木をルーツとする企業が保護活動をおこなっているようだ。うれしいことである。

日向山の頂上は標高404mだが、横浜のビル群や相模湾をみることができた。昼食を各々、好きな所でとる。

帰りは下りのみ。足元に注意しながら紅葉に別れを告げ晩秋の午後の陽を浴びながら足を進める。

林道からは川沿いの道を水の音を聴きながら進む。途中、広沢寺温泉のクライミング練習をしている岩肌を見る。参加者からは驚き声が聞こえる。

紅葉の葉の裏から日差しを見ると何とも言えない美しさである。参加者一同心に焼き付け帰路についた。

<観察できたもの(抜粋)>

イズセンリョウ・オニシバリ・サネカズラ・シロダモ・ツガ・フサザクラ・ベニバナボロギク・ホソバカナワラビ・マツカゼソウ・マツグミ



ベニバナボロギク



サネカズラの実

(記 小笠原 多加子⑩、写真 松永 廣⑩)

シリーズ 『やま』の色々

「生物圏」という語があります。「地球上で生物が生息している空間（日本大百科全書ニッポニカ）」で大気圏・水圏・岩石圏にわたる生物の生存範囲のことです。ヒトはこの生物圏の一員と説明されてきましたが、ヒトはこの生物圏のシステムに従った活動をしている一員でないという見解が最近強くなりました。

松井孝典（東京大学名誉教授）は人間は一般の生物と違うとして新たに「人間圏」（homosphere あるいは humansphere）という区分を提唱しています（例えば、日本地球惑星科学連合ニュースレター August, 2008 Vol. 4）（図1）。



図1 松井孝典論文_200808_
日本地球惑星科学連合ニュースレター

現代は地質年代では第四紀でその第四紀は1万1700年前を境に「更新世」と「完新世」に区分されますが、最近のヒトの活動が高まった時期以降を「人新世」としようという動きが世界的にあります。まだ専門家の間で議論中の区分提案ですが、昨今の気候変動や文明の進展と人類社会の未来が憂慮される現代においては、避けて通れない文明の岐路に在ることの現れと思います。

こんな時代認識の変化に対応して、現代をどう理解し、どのように行動したらいいかを模索する動きも活発になっているようです（例えば「森林環境2024；人新世の生物多様性」森林文化協会、ISBN978-4-9980871-9-9、森林文化協会のホームページからダウンロードできます）（図2）。

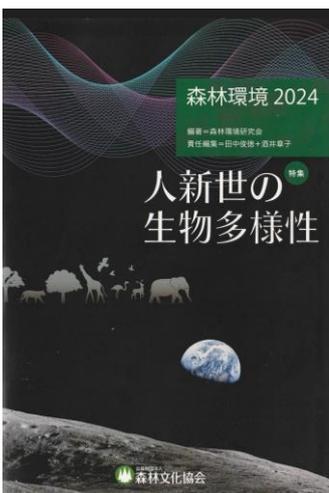


図2 「森林環境2024；人新世の生物多様性」森林文化協会

第6回 生物多様性について考えてみます⑥

「自然」に影響を与える人間（ヒト）の位置づけを少し深く考察します

公益社団法人 大日本山林会参与 桜井尚武 氏

大きく見て、地球表面面積の1/3を陸地が占め、その陸地の1/3が森林です。その森林のほとんどが文明を手に入れた現生人類の何らかの影響を受けています。文明を手に入れた人類（ヒト）の定義が難しいのですが、現代の生存生物のうちでヒト属ヒト(Homo sapiens)と分類される生物のことで、同じヒト科(Hominidae)の類人猿類の中では形態的生態的に異なった独立したグループであるといえます。

このヒトの発生初期の歴史や自然への影響程度は不明ですが、最近1万1700年頃以降は農耕を行って地表面の植生を大幅に変え、有史以降は社会性を発展させて街作りや交易、戦争などを活発に行ってやはり地表面を大幅に変えたことが記録から解ります（例えば図3）。



図3 山裾から峯まで続くスギ造林地、明治時代初頭から治水・植林の父 金原明善翁主導で造成された_天竜川沿いで1990年代初頭撮影

産業革命と言われる石油石炭などから得る外部エネルギーを駆使するようになると、地表面の改変だけでなく大気圏や水圏・地圏などでも開発という名で改変を続けそれは今でも加速しつつ続けられています。

この大きな活動のうねりの中で残された原生自然は本当にわずかになりましたが、それでもこれが私達自然生物の依ってきた「自然」の貴重な手本であり教科書だと思ふのです。

これらをどう理解しどう今後も付き合いを続けていくかについて、次回以降考えたいと思います。

桜井先生のご執筆内容にご感想やご質問がありましたら
先生のアドレス

hayachines@yahoo.co.jp にお送りください！

活動短 信

今回の掲載は R6 年 11 月 5 日から R6 年 11 月 26 日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

1 月(睦月)(旧暦 12 月師走)の
二十四節気、七十二候、鳥こよみ

立春 2/4 雨水 2/19、東風解凍(はるかぜこおりをとく) 2/3~7 暖かい春風が吹き、氷が溶けだす頃。旧暦ではこの季節から新年が始まります。

鳥こよみ:山野の冬鳥の代表選手ツグミ。冬枯れの雑木林を歩くと、地面で餌を探して「だるまさんが転んだ」歩きをしている姿を目にします。夏はシベリアに渡るため囀りが聞こえず、口を「つぐむ」のが名の由来。この冬はまだ、ツグミの姿を見ていないのが気がかりです。

活動短 信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です(200 字程度で、Word、メール直筆は可、Excel は不可)。
写真はなくても構いません。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付:令和 x 年 x 月 x 日(曜日)できれば時間と天気も

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財 (公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

ス 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

イ インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、本文を 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名、写真撮影者名=フルネーム+期 もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(_)_m

◆ 日本ヒルティ株式会社様森林再生活動

日 令和 6 年 11 月 5 日(火) 10:00~14:00 晴れ

場 県立 21 世紀の森

参 10 名

県 水源環境保全課 村松様

イ L 石垣⑮、上宮田⑩、岡村⑯

今年度より森林再生パートナーにご協力いただき初めての活動です。今後、社員 600 名の方々の活動に先だち、社長様他役員の方々が 10 名での体験となりました。

各自集合後、身支度を整え本日の活動場所[平成 25 区域]に到着。

インストラクターから、間伐作業の流れ「選木→伐倒方向決定→ロープかけ→滑車の付け方→受け口・追い口の説明」等の実演と解説を受け



た後、2 班に分かれて作業開始となりました。さすが工具専門の会社の方々であり、飲み込みの早さと手際の良さは実に見事で、順調に午前の作業が進みました。

午後はお互い協力し、声かけしながら進めていき正確に伐倒方向へ倒す事ができました。

「思ったよりずっと重労働だった」「チームワークの大



切さを感じた」「短時間なのに腕はパンパンに張って疲れてます」等々の感想を述べ、皆さま充実した表情での解散となりました。(記・写真 石垣 桃栄⑮)

◆ 豊かな森林づくり事業 畑引山地区町有林植栽

日 令和 6 年 11 月 5 日(火) 8:30~12:00 晴れ

場 箱根町畑引山(箱根やすらぎの森)

参 55 名(大人 10, 小人 45)

ス 箱根町町長 教育長 企画観光部観光課 永野様他 勝俣林業(株) 勝俣様他

イ L 野牛⑧、石原⑧、小林⑯、内田⑰

森の働きを高めるために畑引山の針葉樹林(スギ・ヒノキの人工林)を間伐(材として活用)して、針広混交林を目指す。箱根中学一年生 4 5 名と一緒に、イロハモミジ・ウリハダカエデ・ヒメシャラ・ブナ・ホオノキ・ヤマザクラ・ヤマボウシの七種の自生種を植栽した。

箱根町長のお話の後、内田さんから「森の働き」の講話、野牛さんから「苗の植え方」の指導ののち、四班に分かれて作業開始。

子供達と森のお話しをしながら苗を植え、残った時間はゴミ拾いや道具の手入れを行った。昨年に引き続き、二回目の活動。「地元の子供達と森を育てていく」とても有意義な活動だと思う。活動中も数頭のシカが現れた、シカ対策等試行錯誤しながらの活動になるが、是非継続していただきたい。(記 石原 和美⑧)

◆ (株式会社) 横浜銀行様 枝打ち

日 令和 6 年 11 月 9 日(土) 9:30~12:45 晴れ

場 県立 21 世紀の森

参 大人 38 名、子ども 5 名

県 神奈川県 環境農政局緑政部 水源環境保全課

水源事業グループ グループリーダー 村松 広 様

イ L 野口⑰、吉田⑩、西出⑱、西岡⑭、岡村⑯、小池⑰

21 世紀の森上空は青空で、風もなく、広場から見上げると、針葉樹林の緑と紅葉の進んだ広葉樹林との境界線がくっきりと分かれていました。朝は厚手の上着が必要な位でしたが、こんな日は絶好の作業日和です。カツラの葉も甘く充分に香り、ガズミも赤くキラキラ輝いて、21 世紀の森は、来園者を迎える準備万端です。

9:15 大型バス 2 台で、株式会社 横浜銀行様の社員とその家族、OB の方など総勢 43 名が到着しました。開会式では、水源環境保全課の村松様より、横浜銀行様へ、2018 年より森林再生パートナー制度へご賛同いただいている旨、お礼の言葉がありました。横浜銀行様から「山は川から海へ繋がっています。森林の保全活動に貢献し、それを発信していきましょう。」と森林活動に熱意のあるご挨拶がありました。前回は真鶴で海の活動だったそうで、森林再生パートナー企業の意識の高さを感じました。



9:45 班に分かれて、「10 分間の森林館ツアー」へ出発です。森林館では衛星写真を使って、神奈川の水道水がどの川で賄われているか、また、スギとヒノキの標本を使って、枝打ちするときの枝の部分、枝座を説明しました。事前の横浜銀行様からの要請通り 10 分間でスムーズに森林館ツアーを終えることができました。

10:10 枝打ち開始、参加者のほとんどが枝打ち初体験でした。シカ柵の中に入ると、「暗いですね。」と誰かが言いました。作業場所は、傾斜もあり、石が出で



るところもあり、水の流れて地面がえぐられて、小さな谷のようになっているところもあります。また、林床にはツルや草も生えており、普段、山で活動するインストラクターには普通の光景であっても、初めて山に入った人には躊躇する場面だったようです。切り方を説明するため、「木のそばに寄ってください。」と言っても、道に一気に並んだままです。「次の班が通るので、道を空けてください。」とお願いして、やっと林床に下りてきてくれました。草ボーボーの道なき道へ、一步踏み出すのはかなりの勇気が要るようでした。ある女性に、1mほど離れた目的の木に移動するのに、「どうやって、そこへ行けばいいですか?」と聞かれました。足場のいいところを選んで、通りやすいように草木を手で寄せて、木が跳ねないように手で押さえて通ると安全ですよ、とアドバイスしました。初めて山に入る人への対応も充分必要と気づきがありました。それでも、一旦作業が始まると、「私、この作業好き!」という声も聞こえてきました。そこに 50 人弱の人がいるとは思えない静け

さで黙々と作業をしていました。幹に顔を近づけて、きれいに切り落とせているかのチェックも怠りません。ひとり 2~3 本枝打ちして、作業も終了に近くなった頃、また、誰かが「あっ! 明るくなった。」と気づきの声をあげました。下山途中で後ろを振り向くと、100 本ほどの幹に、枝打ちしたばかりの真新しい白くて丸いポチポチがスギの緑に映えていました。作業の前後で、林内環境が大きく改善されたのも、参加者の目に焼き付いたことでしょう。



11:30 閉会式 閉会式終了後、横浜銀行様の企画チーム 4 名は、お昼時間を削って道具の片づけをしました。神代杉の近くのブナの木から、黄葉したブナの葉が風でサワサワと音をたててたくさん舞い降りました。頑張った人へのご褒美です。

12:45 横浜銀行様 帰路 小田原駅へ出発バスに乗る前に、何人もの方から感謝の言葉をいただきました。担当した班の班長からも「次も! よろしく願います。」と声をかけていただきました。インストラクターの会のロゴが示す通り、「森林と人をつなぐ」一助になっている、と嬉しく思いました。

(記 小池 宗子^⑩、写真 野口 忠志^⑩)

◆ 県民参加の森林づくり 13 (植栽)

令和 6 年 11 月 13 日 (水) 8:30~16:30 晴れ

箱根町仙石原片平地区 (町有林)

82 名

藤本様、南橋様 看 佃様

箱根町企画観光部観光課 永野様

L 末原^⑮、柏倉^④、滝澤^⑤、齋藤^⑧、内野^⑨、上宮田^⑪、松本^⑪、大原^⑬、黒川^⑭、小松^⑭、鈴木^⑭、西岡^⑭、野村^⑭、石垣^⑮、久次米^⑯、小林^⑯

「県民参加の森林づくり」の中で晩秋の恒例となっている箱根町での植栽活動。今年も参加者 82 名のご協力の下、盛大に行われました。集合地点から活動エリアまでの行程は軽いハイキングのようですが、班に分かれ植栽を行う今年の現地エリアは殆どが急斜面。足場の確保と、近接特に斜面の上下での作業禁止を安全目標に活動に臨みました。



用意された苗木はイロハモミジ、ヒメシャラ、ヤマボウシ、ホオノキ、ブナ、ヤマザクラの 6 種、計 800 本で、事前に設置された支柱の位置に一本ずつ植えていきます。天候にも恵まれ活動日和な一日であったこともあり、各班とも作業は概ね順調に進み、不安定な足場で危惧していた事故や怪我等は無くほぼ予定通りのスケジュールで全ての苗を植えきることができました。このイベントに何回も参加されているベテランも見られる中、初参加かつ苗木に触れたり植樹自体が初めての方も多く、初めて



の体験で充実のひと時を過ごされたようでした。

活動終了後は同じく恒例となっている温泉入浴。箱根高原ホテル

様のご厚意で今年も利用させていただきました。何年、何十年先にもなるかと思いますが、やがて緑豊かな広葉樹の森がみられる日を想い今年の活動を終えました。

(記 末原 興一 ⑮、写真 財団 藤本様 南橋様)

◆ 神奈川県内広域水道企業団

令和 6 年度 森林づくり活動 (間伐)

| | |
|---|-------------------------------------|
| 日 | 令和 6 年 11 月 14 日 (木) 12:45~15:30 曇り |
| 場 | 世附水源公有林 |
| 参 | 15 名 (大人) |
| 県 | 松村様 |
| イ | L 牧石⑭、角石⑮、三浦⑰、高谷⑱ |

神奈川県内の用水供給事業を担う神奈川県内広域水道企業団は、脱炭素の取組みとして、令和 5 年度から森林再生パートナー制度に参画し、その一環として水源である丹沢湖の世附水源公有林で、森林づくり活動 (間伐) を行った。

参加者はネーミングライツ看板の前で記念撮影、インストラクターの紹介、準備体操を行い、3 班に別れて道具を受け取り、作業場所へ移動した。

作業場所では、インストラクターから間伐作業時の注意事項や作業手順の説明を受け、安全目標「周囲の安全確認」を確認し、作業に取りかかった。

間伐する木は予め選木しており、伐倒方向を決め、ロープを木に掛け、チョークで受け口、追い口を書いて、間伐ノコギリを使用して間伐した。その後、玉切り、枝払いを行い、道具を片付け無事に終了した。



今回、間伐したのは杉 (1, 2 班) とヒノキ (3 班) で胸高直径が 24.0~25.5 cm で樹高は 23~25m あった。

ヒノキを間伐した班は、玉切りに苦労していたが、参加者からは「貴重な体験ができた」、「楽しかった」、「またやりたい」など、感想があった。

(記 角石 正明⑮、写真 牧石 稔⑭)



◆ 横浜市立下田小学校 竹を刈ってみよう

| | |
|---|-------------------------------------|
| 日 | 令和 6 年 11 月 15 日 (金) 13:30~15:00 曇り |
| 場 | 横浜市港北区下田町の竹林 |
| 参 | 大人 1 名、子供 28 名、計 29 名 |
| イ | L 野牛⑧、竹内⑮、松浦⑯ |

総合的学習で竹細工を作ります。近隣の竹林所有者のご厚意で材料となる竹を切り出します。4 班での活動です。各班の課題はベンチ班 流しそうめん班 楽器班 シーソー班です。直径 10cm 以上の竹を協力して倒しました。その後玉切り、枝払いを行いました。班により必要な竹のサイズが異なります。ここからの加工が大仕事でした。学校に持ち帰る竹を選別し、置いていく竹を整理整頓して作業終了です。ケガもなく終了しました。ところが学校までの持ち帰りが大変でした。3m 以上の長くて重い竹が必要な班や、30 cm 位の短くて軽い竹が必要な班など大きな差がありました。切り出した竹がどのような作品になるのかが楽しみです。(記 松浦 正⑯)

◆ ULFe s 2024 森林プロジェクト体験

| | |
|---|---|
| 日 | 令和 6 年 11 月 16 日 (土) 9:30~15:00 曇り |
| 場 | 株式会社アルバック茅ヶ崎本社・工場 |
| 参 | 約 500 名 (一般来場者 子ども約 200 名 その家族約 300 名) アルバックスタッフ 4 名 |
| イ | L 田島⑰、菊地⑱、柏倉⑲、長尾⑲、石垣⑲ |

コロナ禍等で中断していたアルバックフェスティバルが今年 5 年ぶりにおこなわれました。場所は茅ヶ崎市荻園の本社工場で、悪天候に備えて屋内の会議室が「森林プロジェクト体験」に割り当てられました。そこで丸太切り体験とどんぐりクラフト作りをアルバック様スタッフ 4 名とインストラクター 4 名で担当しました。

丸太切り体験では、約 200 名の子どもとその家族が丸太 (カツラ) 切り体験をし、隣の部屋で色付けをしました。堅いカツラを間伐ノコで切るの思った以上に難しかった。



たようで、親子団結して懸命に切っていました。約 2 m のカツラを 8 本用意しましたが、終了時間を迎える頃にはすべて 1 m ほどに短くなっていました。

どんぐりクラフトは午前 15 組、午後 15 組限定で整理券配布方式で対応しました。午前も午後も整理券配布開始後約 10 分で受付終了となる盛況ぶりでした。ドングリやサクラの小枝などの入手やタボ付けはアルバック様が事前におこない、参加者は接着固定と色付けだけおこなえば完成するほど入念に準備された品物でした。

森林プロジェクト体験のエリアはフェスティバルのスタンプラリー（主たる動線）の最後のチェックポイント付近だったため、10:30 の開始から 14:00 の受付終了まで常に人の流れが多く、特に丸太切りのスタッフは休憩もとれない状況でした。しかしながらどんぐりクラフトのスタッフは通行者の整理や入場制限等随時手伝っていただき大きな混乱もなく無事に終了時間を迎えられました。



（記 田島 聖一郎^⑰、写真 石垣 桃栄^⑮、菊地 昭子^①、田島 聖一郎^⑰）

◆ トキコシステムソリューションズ株式会社様 第 3 回「未来につなぐトキコの森」森林再生活動

日 令和 6 年 11 月 16 日（土）9:30～12:00 曇り
場 世附水源公有林
参 14 名
イ L 森本^⑰、上田^⑩、前田^⑪、上宮田^⑪

今回のトキコシステムソリューションズ株式会社様森林再生活動は、自然観察を通じて水源環境保全の大切さを学ぶことを主目的に開催されました。木々の彩りも深まり始めた丹沢湖周辺の三保ダム広場と千代の沢展望台の 2 コースに分かれての自然観察でした。

三保ダム広場コースでは、ミニチュア・ダムで丹沢湖全体像を見ながらダムの役割（洪水調整、水道水の確保、発電）の理解を深めていました。普段は体験する機会が少ない、シカの沼田場（体表についた寄生虫や汚れを落とすための泥浴びの場所）を見たり、黄葉したカツラの葉の「わたあめ」のような甘い香りを嗅いだりと、ゆっくと自然観察を楽しん



でいました。カツラの甘い香りがしたら、どこにカツラの木があるか探しはじめる姿が印象的でした。

千代の沢展望台コースでは、深い紅色に紅葉したイロハモミジや他の植生を鑑賞しながら、千代の沢展望台を目指しました。千代の沢駐車場から展望台までは、林内歩きで森林の様子を観察しながら山歩きを楽しみ、展望台では丹沢湖を一望し、ダムを囲む水源林とダムの役割の理解も深めていました。

参加者の皆さんは、インストラクターの話に熱心に耳を傾けており、最後には「とても楽しいガイドでした!」とお言葉もいただき、皆さんが楽しみながら水源環境についての理解を深めていただけたと感じました。



（記 森本 利弘^⑰、写真 トキコシステムソリューションズ株式会社様）

◆ 伯東様 21 世紀の森活動

日 令和 6 年 11 月 16 日（土）10:00～12:00 晴れ
場 県立 21 世紀の森
参 13 名
県 町田様
イ L 岡村^⑯、野口^⑰、藤田^⑰

山の紅葉が美しく見える秋晴れの日成長の森で枝打ち作業を実施しました。

平成 28 年度に植樹したエリアで、初めて枝打ちをする木が対象だったので、作業前は地面の際まで枝が出ていて、森の中に日の光が入らず鬱蒼とした状態から始めます。

仕上がりがきれいな状態になるように、1 本、1 本丁寧に枝打ち作業を進めていきます。最初はとまどっていた初めての方もすぐに慣れて作業していただきました。枝打ちされた木が多くなってくると、だんだん森の中が明るくなっていきます。作業が終わったときには最初とは見違えるくらい明るくなっていました。



作業後には、森林館で水源林としての森林や、林業についての展示を楽しんでいただきました。





(記・写真 藤田 あずさ⑰)

◆ 東日本電信電話株式会社 神奈川事業部様 県立 21 世紀の森における森林保全活動

| | |
|---|---|
| 日 | 令和 6 年 11 月 23 日 (土) 10:00~14:00 曇り後晴れ |
| 場 | 県立 21 世紀の森 |
| 参 | 東日本電信電話株式会社 神奈川事業部様 45 名 |
| 県 | 山田様 |
| イ | L 上宮田⑪、井出①、柏倉④、稲野辺⑬、岡村⑭ 久次米⑯、内田⑰、三浦⑰ |

暦の上では小雪を迎えるこの時期。数日前は寒さに震える日もありましたが、この日は朝方の雨が止み、穏やかな秋晴れの下で活動が行われました。赤や黄色に色づいた森の中で、枝打ちや竹林整備、木工工作・自然観察など、それぞれの班に分かれて取り組みました。木工工作・自然観察班は親子 2 組の計 4 名。まずは丸太切りに挑戦し、その後自然観察へ。カツラの林からは甘い香りが漂い、子どもたちは大人が気づく前に次々と発見を重ねます。蛇の抜け殻やスカンダワラを見つけ、樹木の根元に開いた穴を指さして「これ、なあに？」と、子どもたちの関心は尽きることがありません。さらに、ムクロジの実を拾い、水を入れたペットボトルに入れてよく振り、シャボン玉体験も行いました。何度か挑戦した後、うまく膨らんだ瞬間には、周りの大人たちからも拍手喝采が起こりました。



枝打班は切り口が「でべそ」にならないような丁寧な枝切を行っていただき、竹林班は絡まった蔓処理をしな

がら竹の皆伐により明るい斜面が広がりました。

林内整備の意義の説明にも真剣に耳を傾けておられ森の中には終始笑い声が響きわたり、安全に作業が進められました。

閉会時の表情からは有意義な活動だったことが読み取れ、大人も子どもも大満足の活動となりました。

(記 井出 恒夫①、上宮田 幸恵⑪、
写真 上宮田 幸恵⑪)

◆ いすゞ自動車 様

第 10 回やどりき水源林保全活動

| | |
|---|------------------------------------|
| 日 | 令和 6 年 11 月 23 日 (土) 9:40~13:15 晴れ |
| 場 | やどりき水源林 |
| 参 | 大人 20 名 |
| 県 | 水源環境保全課 野口技師、星主事 |
| イ | L 小国⑰、高谷⑰、田島⑰、広浜⑰ |

10 回目となる水源林保全活動は、紅葉が始まったやどりき水源林で開催されました。朝方の気温は 6℃でしたが、風は無く徐々に晴れ間が多くなり、開会式頃には集合写真のとおり絶好の活動日和となりました。

当日は祝日「勤労感謝の日」。行楽渋滞の影響でお客様乗車のマイクロバスの到着が 30 分程度遅れましたが、スケジュールをずらして活動を開始しました。

2 グループに分かれての活動とし、「ツル切り」グループ 13 名は道具装着を手際よく行い、作業場所である「成長の森 平成 20 年度 1」に向け出発しました。このエリアはやどりき水源林の奥まったところにあり、移動に 40~50 分程度見込んでいますが、その行程を 30 分で踏破。そのかいあり通常は 15 分間程度となる作業を 45 分間も実施することができ、林内の見通しが良くなるなど、成果がはっきりとでました。

一方、「自然観察・丸太切り」グループ 7 名は林間広場から枕状溶岩までの林道コースをインストラクターの案内で散策。秋ど真ん中の水源林を、景色、匂い、音で楽しんでいただきました。その後は丸太切りです。ヒノキの香り、カツラの固さを意識しながらノコギリ作業に取り組み、木片は紙やすりで滑らかなコースターに仕上げました。自宅でも香りを楽しんでいただければと思います。

参加者の方の行動が非常にスムーズで、丸太切りの後、木伝導の体験や滝郷の滝の見物、そして B コース後半にある大スギまで散策もしました。管理棟入り口に出る林道を通って戻ろうとしましたが、林道舗装と柵設置のために使われる丸太が多く転がっていて通れず再び大スギの前の舗装林道から戻りました。

また「ツル切り」グループも予定時間までに道具清掃まで済ませ、昼食時間を少し調整したものの、当初予定の 13:15 に事故・怪我無く無事活動終了となりました。

(記・写真 小国 一男⑰)



◆ 県民参加の森林づくり (植栽)

日 令和 6 年 11 月 23 日 (土) 9:00~12:30 晴れ

場 相模原市緑区小原

参 参加者 41 名 (大人 39 名 中学生 2 名)

県 トラスト財団 (4 名、うち 1 名^看大谷様)、

相模原市森林政策課 (2 名)、

相模原市まちみどり公社 (2 名)、森林組合 (1 名)

イ L 松石^⑬、波多野^⑨、山下^⑪、山口^⑪、西出^⑫、
水野^⑭、相澤^⑮、森^⑮、小林^⑯、小野寺^⑰、永田^⑱、
鈴木^⑰、鶴田^⑰、藤田^⑰、松原^⑰

小原での植栽は 11 月後半ということで少し寒くなり
そうな天気予報でしたが、当日は好天に恵まれました。こ
ちらは今回が初めての活動場所です。しかも、現地では移
動を含む 4 時間の活動中トイレが使えない、という事前
情報でインストラクターたち
は戦々恐々としていましたが、
トイレ休憩で立ち寄った小原
の郷で皆さんにしっかり準備
していただけたので心配は杞
憂となりました。余談ですが、
移動中に見かけたチョット気
になる「美女谷」の看板は、照
手姫伝説ゆかりの観光スポッ
トです。



オリエンテーションを行った栃谷坂沢林道記念碑から
植栽場所までは山道を 40 分登ります。それも各自重い苗
木袋を持つての移動ですので少々厳しいかも？と思われ
ましたが、皆さんはすれ違うハイカーたちに元気に挨拶



する余裕も見られるほどで
した。今回の活動地は高尾山へ
と向かうハイキングコースの真
横だったため、人通りの多い場
所での植林というのがいつも
と違って新鮮でした。

作業場所は平坦地から急斜
面までありましたが、私たち 5
班はエリア端の急斜面に当た
りました。班員の方々は最初そ
の勾配に面食らったようでした

が、コツを掴んだ後はリズムよく低い場所から高い場
所へと植林作業を進めていま
した。顔を上げると 1 班から 5
班まで山全体で元気に作業し
ている様子が見渡せました。

1 時間 30 分程度でイロハモ
ミジ、ヒメシャラ、ケヤキ、ヤ
マザクラ、マメザクラの 5 種
類、合計 500 本が植えられま
した。初参加の方から経験者ま



で、2m ピッチでなるべく違う種類の木を植える、苗を植
えたところをしっかりと踏み固め苗が抜けないようにする、
という指導を受けながら皆さん楽しく活動されていま
した。活動終わり頃、近くを歩いていた女性ハイカーに何を
しているのかと声を掛けられ、植栽のことを話すと「また
ここに来るのが楽しみです！」と言ってもらえ嬉しかった
です。よい森林保全 PR になったでしょうか。

慣れない場所ということで帰りにちょっとした道まち
がいもありましたが、無事スタート地点に戻り、提供いた
だいたヤクルトの優しい甘さに疲れも癒されて終了とな
りました。

(記・写真 松原 純子^⑰)

◆ FY24 第 3 回 森林保護活動イベント

日 令和 6 年 11 月 24 日 (日) 19:00~15:00 晴れ

場 県立 21 世紀の森

参 47 名 (大人 32 名、子ども 15 名)

県 水源環境保全課 藤原主査、黒田主事

イ L 田島^⑰、佐藤^①、松本^⑩、真貝^⑩、斉藤^⑬、
小国^⑰、杉山^⑰、広浜^⑰

当日の天候は、朝の冷え込みも風もない穏やかな晴
れ。駐車場から望む木々も色づき(猛暑だったせいか、
くたびれた色合いの葉も多かったですが、) スギの深
緑とのコントラストはなかなか素敵な景色でした。

午前は、竹林整備
と自然観察の活動
です。私が担当した
竹林整備では各班
ごとに参加者・健康
状態・作業内容・安
全目標(手元・足元
ヨシ!)を確認後、



経路崩落の注意や植樹林の紹介(樹齢の差異など)、見
かける植物の話など、参加者とコミュニケーションを
図りながら移動しました。竹林整備の作業場所は傾斜
がきつく、また細い竹と小木にツルが絡んでいて作業
性の悪い場所でした。私は、小学生の子どもがいる家族
を 2 組担当しました。作業内容を確認後、作業開始。保
護メガネ装着を嫌がる子どもがいましたが、作業に夢
中になるうちに次第に慣れてきたら保護メガネの存在
を感じないほどに一生懸命に竹林と格闘していました。

午後は、自然観察、リース作り、クラフト作りに分か
れました。私が担当した自然観察では、運動広場から見
える広葉樹と針葉樹の違いを説明し、トイレ横でクス
ノキ、石碑の前でムクロジを紹介しました。どんぐりコ
ースでは手入れの少ないスギ林で人の手が継続的に入
ることの必要性、どんぐりの森では様々な種類のどん
ぐりを観察し雑木林やナラ枯れを説明しました。金太
郎コースではアズマヤのアリジゴク、せせらぎの音、カ

ツラの香り、ヒメシャラの樹皮の冷たさなど五感を使って体験してもらいました。森林館で県の水源林保全活動も紹介できました。

閉会式ではサプライズで子どもたち 3 人にインタビュー。子どもたちの対応が微笑ましく、自然と参加者が笑顔になっているのが印象的でした。

(記 杉山 宇史⑩、写真 田島 聖一郎⑰)

◆ 鶴岡八幡宮「槐の会」様 森林再生パートナー 森林活動 AM) 除伐、 PM) クラフト・自然観察

日 令和 6 年 11 月 24 日 (日) 10:00~14:30 晴れ
場 やどりき水源林 (足柄上郡松田町)
参 23 名 (大人)
県 水源環境保全課 村松グループリーダー
イ L 高谷⑰、牧石⑭、森本⑰、三浦⑰

鶴岡八幡宮「槐の会」は、現在の「森林再生パートナー」の前身である「水源林パートナー制度」を実施していた 2008 年から、長年にわたり



神奈川県森林整備へのご支援・ご協力をいただいています。この日は快晴で、最盛の紅葉が映える一日でした。



午前中は成長の森 (平成 19 年) に行き、径路に落ちた落枝や石ころを取り除き、カツラの間伐などを行いました。短時間でありましたが、丁寧に手際よい

作業で整備が進みました。午後は自然観察とクラフトに分かれました。自然観察では「延寿の森」付近でミツマタの花芽やムササビの巣などの観察を行いました。クラフトでは、ヒノキとカツラの丸太を各自作成したいものにあわせて切るところから始めました。周辺の木の実を採取してパー

ーツにしたり、それぞれ工夫を凝らしながらウサギの置物や、好きなキャラクターなどを作成しました。



森の中の時間を満喫し、楽しんでいただくことが出来ました。

(記 高谷 秀史⑰、写真「槐の会」様他)

◆ 月島 JFE アクアソリューション (株) 様 森林整備活動 (ツル切り)

日 令和 6 年 11 月 26 日 (火) 10:00~14:00 曇り
場 やどりき水源林、成長の森、H21-2 エリア
参 大人 7 名
県 水源環境保全課 星様、秋本様
イ L 牧石⑭、西出⑱

曇り空でしたが紅葉が見頃のやどりき水源林、成長の森で「ツル切り」を行って頂きました。月島 JFE アクアソリューション (株) 様は森林再生パートナーにな



られて初めての森林整備活動でしたが、参加者の皆さんは精力的に活動して頂いて、ツルが絡み合った薄暗い森が見通しの良いすっきりした森となりました。

開会式の後、道具を身につけて、途中、寄沢に設置した仮橋を渡り、傾斜のある作業路を登って、「成長の森 H21-2」に 40 分ほどで到着しました。現場はモミジなどの広葉樹が 15 年前に植樹された場所ですが、径 3~4 cm も



あるような太いツルが絡み合って植樹された木の成長を妨げていました。傾斜のある現場でしたが足元に注意しながら下から上に向かって作業を 1 時間ほど行いました。作業が終わり

皆さんできれいに整備された現場を見て、十分な成果が得られたことを確認して下山しました。

昼食後、今度はヒノキやスギの間伐材を利用してコースター作りをして頂き、ヒノキの香りを楽しみながら、サンドペーパーで表面をきれいに仕上げました。その後、インストラクターが用意した材料を使って「スマホ台」を作って楽しんで頂き予定の作業を終了しました。森林整備作業と木工工作を行って充実した一日を過ごして頂けたと思いました。



(記 西出 健一⑱、写真 牧石 稔⑭)

やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

「森の案内人」森の案内人は12月～2月はお休み。3月から再開します。

「やどりき水源林ニュース」

過去号は上記リンク先からご覧になれます。



1月上旬のやどりき水源林
3月15日(土)にミツマタ観
察会があります。応募は以下の
リンクから！

[2025_03yadoriki-3.pdf](#)

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子
muneko-sakura@outlook.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫
skasai0618@gmail.com
黒川 敏史
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小国 一男
ka-oguni@ab.auone-net.jp
河西 静夫
skasai0618@gmail.com

◇ 編集後記 ◇

★ 1/7 から喉の不調や咳がでたので1/10に会の新年会には出たいで、インフルエンザ・コロナのチェックを受けました。結果は陰性で問題なしでした。空気の乾燥からくるものでした。現在のコロナの型はSARS/COV2の検査でした。SARSといえば2002～3年にマレーシアに中期出張の際に東南アジアで発症例がありました、この時日本国での発症例はなかったです。この時の発生源は中国の蝙蝠だったと記憶？していますが。コロナは単純構造だけに簡単に変異するので恐ろしいですね。(松本)

★ 背番号「51」永久欠番 日・米野球殿堂入りが決まったイチローさん、51歳でのタイミングでした。何かにつけ神懸な人だ。1992年ドラフト4位でオリックス入り、94年シーズン200安打達成、日米通算4,367安打、2000年米マリナーズなどで通算3089安打、打率通算0.322と卓越した成績を残した。毎日欠かさずルーティーンを30年以上続けられた姿勢は見習う点が多いが、俗人にはなかなか届きにくい。キックプレーは日本人特有の竹の様な素直さとバネの強さを見た。私のインストラクターNo510以外に、神懸りな「51」を背負う会インストラクターが14名計15名。これを機にイチローさんの様な姿勢で気を引き締め活動に体幹を維持し、事故無く活動に専念したいものだ。(小林)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

https://twitter.com/kanagawa_sizuku



やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL：045-412-2255 / FAX：045-412-2300

<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

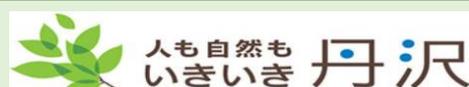
かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生
委員会の ホームページをご覧ください。

<http://www.tanzawasaisei.jp/>

編集人： 河西 静夫
広報部： 黒川 敏史、松本 保、
笠原 かずみ、長尾 晴子、
小林 照夫、小国 一男、
小池 宗子
支援： 大原 正志、吉田 郁夫